

平成23年度

郡上山づくり構想に基づく施策の実施状況報告書



平成24年7月
郡上市役所農林水産部林務課

【 目次 】

はじめに	P 1
. 平成 23 年度の総括	P 4
. 基本的施策ごとの実施状況	P 6
1 . 災害に強い山づくり		
2 . 多様性のある山づくり		
3 . 快適な森林空間づくり		
4 . 木材資源の循環		
5 . 森林資源の利用促進		
6 . 山を支える人づくり		
7 . 地域を支える人づくり		
8 . 林業を支える人づくり		
資料 郡上市の森林・林業	P 15

はじめに

郡上市では、平成22年3月に郡上市の森林・林業の長期ビジョンである『郡上山づくり構想』を策定しました。

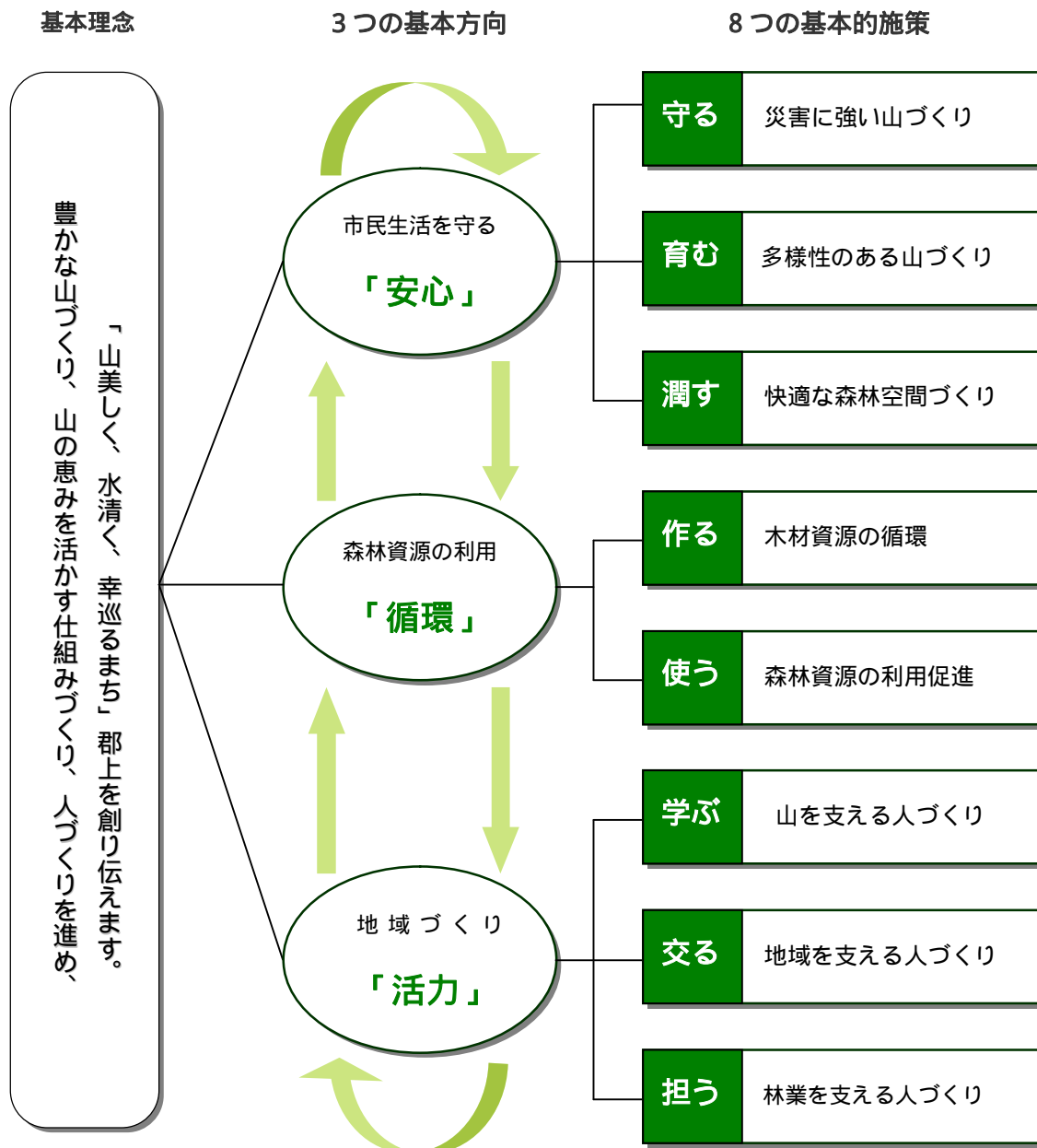
構想では、「山美しく、水清く、幸巡るまち」郡上を創り伝えることを基本理念とし、森林整備、木材利用、人材育成の3つの観点から施策の方向性と推進内容を示しています。

平成23年度も構想で示す基本方向に従って市民、関係団体の皆様、県と協力して山づくりを推進しましたので、その内容を施策ごとの実施状況として報告します。



『郡上山づくり構想』で定める基本方向と基本的施策

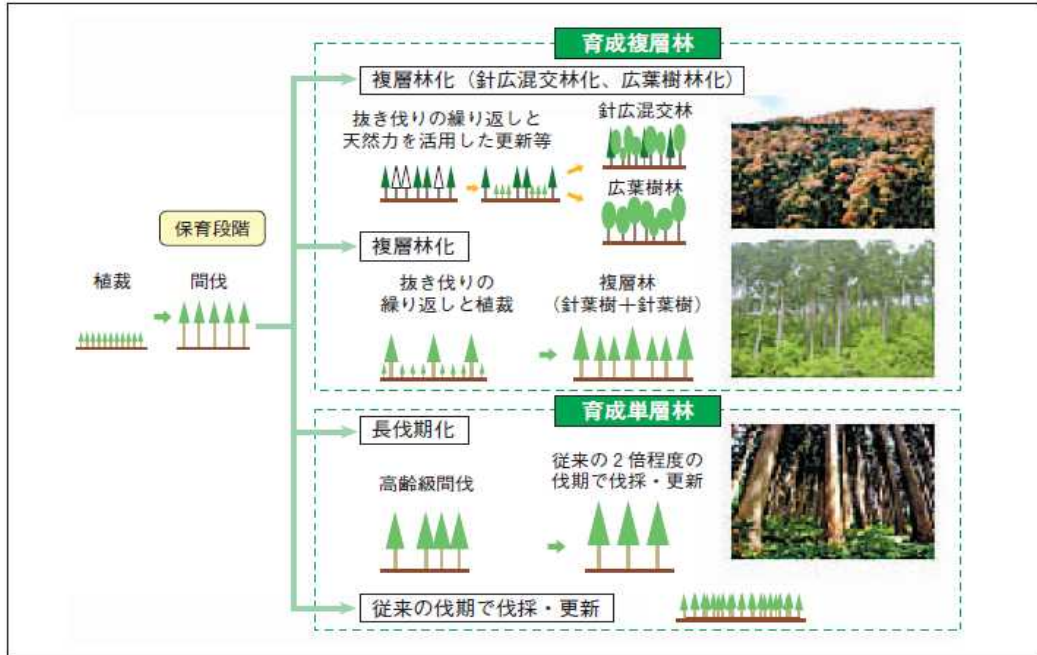
< 施策体系 >



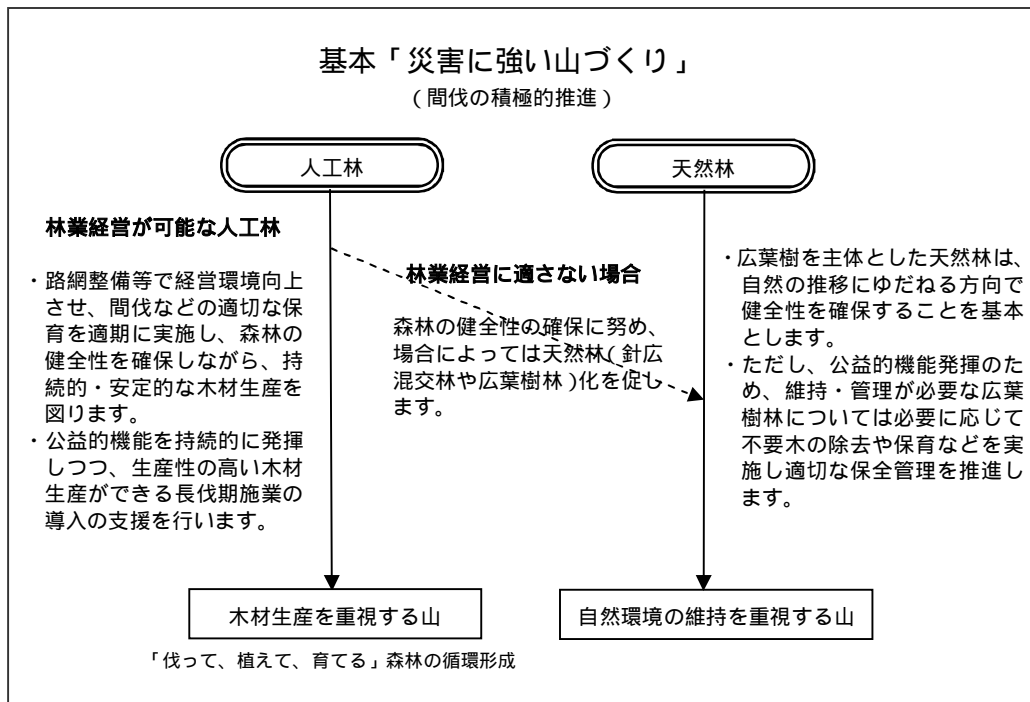
郡上山づくり構想では、豊かで美しい山を実現するために基本理念に基づく3つの基本方向、8つの具体的施策により山づくりを進めることとしています。

多様な山づくりの推進

森林構成や利用目的に応じた多様な山づくりを推進します。



森林整備の基本方向



・平成 23 年度の総括

平成 23 年度は、国の「森林・林業再生プラン」の実現に向け森林計画制度が抜本的に改正され、市町村森林整備計画の大幅な変更、森林経営計画への移行が進められました。また、東日本大震災により木質エネルギーが注目される、地域の森林へのあり方、見方が変化するなど、森林・林業施策が大きく転換しただけでなく森林への関心が大いに高まった一年でした。

市では、こうしたなか「郡上山づくり構想」の方針を踏まえた市町村森林整備計画の策定、県、林業事業者と連携した制度改正への対応を進めるとともに、森林整備の主要施策として取り組んできた間伐を計画的に推進するため、間伐推進特別予算を設け森林整備を実施しました。

また昨年度に引き続き、木材の活用促進に積極的に取り組み、薪ストーブ購入補助制度の新設、郡上市産材住宅建設への補助、白鳥中学校木造校舎の建設を進めました。さらに、国際森林年を記念するフォーラムや植樹会、イベントを開催して、森林の大切さの普及・啓発に努めました。

郡上市森林整備計画の策定

- ・ 23 年 4 月に森林法が改正され、市町村森林整備計画を含む計画制度が一斉変更されました。市では、関係機関や森林づくり推進会議での意見を踏まえながら、24 年度から始まる経営計画や各補助制度、森林環境税を見据えた新しいゾーニングの設定をしました。



薪ストーブ購入補助制度の新設

- ・ 22 年度の薪ストーブ普及・推進協議会での検討結果を受け、23 年度から薪ストーブの購入に補助金を交付する制度を新設しました。市内の薪販売店の周知を図るため、薪販売所のマップ作成も行いました。



郡上市産材住宅建設支援制度

- ・ 22 年度に引き続き、郡上市産材の利用促進と定住促進を目的とした『郡上市産材住宅建設等支援制度』を実施しました。申請のあった 42 件のうち、郡上市産材を 80% 以上使用した住宅は約 8 割、定住につながったものは約 5 割に達しました。



国際森林年記念フォーラム開催

- ・ 「郡上産材利用からみる日本の森林～郡上わりばしプロジェクトの取組み」と題したフォーラムを開催しました。養老孟司氏による講演会の後、各業界の代表者によるパネルディスカッションが行われ、郡上の木材をいかに活用し、山の保全管理や地域の活性化を進めるかについて意見が交わされました。



白鳥中学校木造校舎の建設

- ・ 建設以来 49 年が経過し老朽化が著しく進んだ白鳥中学校校舎は、郡上東中学校に続いて地元産材をふんだんに活用した「地産地消」の校舎づくりが行われました。木材総使用量は 1,670 m³でその 99%が県産材、うち 92%が郡上市産材で建設されました。併せて建設された屋内運動場と格技場も内装木質化により建設されました。



獣害対策の推進

- ・ シカが増えすぎて被害が多発しているため、シカが多く生息する八幡、明宝、和良地域で猟師が集団で猟を行う一斉捕獲を実施しました。また、駆除隊への有害鳥獣捕獲奨励金と併せて、前年度に引き続き猟期にも特別捕獲奨励金を交付して被害対策に努めました。結果、年間で 1,503 頭のニホンジカが捕獲されました。



森林病虫害対策

- ・ 近年、市内で急速に拡大したカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害対策のため、被害量の調査と被害木の処理を行いました。調査結果では、23 年度に新たに発生した被害量は前年度発生量の半分であったことが確認されました。



．基本的施策ごとの実施状況

8つの基本的施策ごとの実施状況は次のとおりです。

守る

1．災害に強い山づくり

間伐の推進

国・県の補助に市の上乗せ補助を行い、1,403haの間伐を実施しました。23年度は県の補助率が減額され計画事業量の確保が困難となったため、市で間伐推進特別予算を設け470haの間伐を推進しました。県の治山事業等により行った間伐等も合わせると郡上市全体で2,629haの間伐が実施されました。（間伐推進特別対策事業・造林推進事業）

実績	単位：ha		
年度	H21	H22	H23
間伐	3,093	3,078	2,629



森林整備事業の実施

植林、保育、作業路の開設等森林整備に関する事業に対して国、県の補助に上乗せして助成を行いました。（造林推進事業）

施業	H22 実績	H23 実績
植林	25.21ha	16.07ha
下刈り	83.31ha	72.68ha
雪起し	42.14ha	28.52ha
除伐	55.23ha	59.24ha
枝打ち	131.82ha	58.33ha
間伐	1,945.98ha	1402.85ha
作業路開設	21 路線 16,325m	17 路線 7,726.9m



交付金事業による支援

森林計画制度や森林整備事業制度の大幅な改正に伴い、交付金事業についても23年度から支援対象となる活動が変更され、これまで「施業実施区域の明確化作業等」「森林の被害状況等確認」について活用してきた事業から「森林経営計画の作成促進」「施業集約化の促進」「作業路網の改良活動」に対する活動が支援対象とされる中、森林整備を進めるために必要な「施業集約化の促進」「作業路網の改良活動」について、交付金による支援を行いました。

(森林整備地域活動支援交付金事業)

内容	H22	H23
協定数	51件	17件
対象森林面積	17,951ha	29,775ha



市有林の整備と活用

23年度は、市有林5箇所85haの間伐を実施して、そのうちの6haで利用間伐を行い605 m³の材積を搬出しました。(市有林整備事業)

市有林は、合併以来計画的に間伐を実施してきたため施業可能な林分は間伐を一巡しました。今後は整備の方針を定め、保全管理や活用方法等の検討を進めます。

21年度から八幡町ナカソレ市有林で取り組む『森林資源循環プロジェクト』では、22年度の小面積皆伐に続けて23年度は森林文化アカデミーの協力によりコンテナ苗による植栽を行いました。今後は、保育にかかるコストと生育状況を継続して調査していきます。

市有林整備事業

内容	H22	H23
間伐(保安林事業分含)	225ha	85ha
搬出材積	2,812 m ³	605 m ³



森林資源循環プロジェクト

郡上市に多い奥山や急傾斜地などの木材生産林として条件の悪い地域での低コスト林業を検討するため、市有林で取り組んでいるプロジェクト



森林病虫害対策

白鳥の福井県境、美並の美濃市境から始まったカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害は、ここ数年で爆発的に拡大し市内各地で赤くなって枯れる山が多発しました。

このため、市では21年度から開始している被害調査と被害木の処理を23年度も継続して実施し、被害の拡大防止に努めました。調査の結果、12,252本、材積にして7,050 m³の被害木が確認され、そのうちの107 m³について伐倒・くん蒸処理を行いました。

3年間対策を講じた結果、被害は白鳥町・大和町・八幡町で多く見られること、被害地域は西から東に推移したことが確認されました。異常発生した22年と比較して23年の被害量は半分以下に減少しましたが、これは市内のナラの多くが既に被害を受けていることやカシノナガキクイムシの発生状況がその年の気候に左右されることなどが影響したようです。

(森林病虫害防除事業・調査事業)

被害調査

内容	H21	H22	H23
被害木数	12,798本	35,300本	12,252本
被害材積	4,388 m ³	14,649 m ³	7,050 m ³



被害木の処理

内容	H21	H22	H23
被害木処理	50 m ³	100 m ³	107 m ³

H21は割材処理、H22・23はくん蒸処理



居住地周辺の整備

面積が小規模であることなどから、国県の補助事業の対象とならない居住地周辺の森林整備に対し助成を行い景観の保全と鳥獣害対策を図りました。申請者が間伐や枝打ちを実施した林内は、枝がはって暗かったものが実施後には日が差し込むようになって周囲の景観も改善されていました。

広報等を通じ制度のPRを行ったため、前年度より制度活用者は増加しました。(小規模森林整備事業)

実績

内容	H22	H23
申請件数	11件	18件
間伐・枝打ち	4.6ha	7.9ha



鳥獣害対策の推進

シカが増えすぎ、農作物の被害や苗木の食害、交通事故などが頻繁に発生するようになったため、シカの生息数の多い八幡町、明宝、和良町で猟師が団体で猟を行う一斉捕獲を実施しました。捕獲頭数に応じて奨励金を交付する捕獲奨励金についても、シカだけは11月から3月の猟期にも特別捕獲奨励金を交付して被害対策に努めました。1年で捕獲された鳥獣の総数は2,053頭でした。

(有害鳥獣(特別)捕獲奨励金事業)

また、獣害対策の知識を深めるため各地域で市民を対象とした獣害対策講座を開催し普及・啓発に努めました。他にも狩猟鳥獣を食材にするジビエの取組みや、犬による追い払い「モンキードッグ」の導入などが進められました。

有害鳥獣年間捕獲数

内容	H22	H23
イノシシ	1,721頭	259頭
シカ	821頭	1,503頭
サル	272頭	216頭
カラス	85羽	75羽
クマ	3頭	0頭
合計	2,902頭	2,053頭



施業計画制度の変更、集約化の推進

24年度から始まる経営計画へのスムーズな移行のため、施業計画の満了期間が近い事業者を中心に個別相談等に対応しました。

集約化についても新規で6件が認定されました。

高性能林業機械の導入

効率的な森林管理に欠かせない高性能林業機械の導入が進みました。23年には1台の高性能林業機械（ハーベスタ）が市内で購入され、これで市内の高性能林業機械保有台数は20年に20台であったものが23年には24台となりました。



林内路網の整備

間伐材等の搬出に欠かせない林内路網の整備を行いました。

「相生～落部線」をはじめとした林道を2,299m開設するとともに、作業路の開設は、事業体が行う加速化事業分も含めると54路線 20,937mが開設されました。（林道整備事業・造林推進事業）

内容	H22	H23
林道の開設	2,509m	2,299m
作業路の開設	28 路線	54 路線
	22,137m	20,937m



薪ストーブ購入補助制度の新設

間伐材等の未利用材の有効活用を図ることを目的に、薪ストーブの購入に対し補助金を交付する制度を新設しました。本体価格が20万円以上のストーブを対象とし、本体価格の3分の1を助成する制度で、申請件数は44件ありました。(うちペレットストーブ1台)
(森林資源活用事業)

申請件数	44件
------	-----



郡上市産材の利用促進

郡上市産材の利用促進と市内への定住促進を図るため、『郡上市産材住宅建設等支援奨励金制度』に取り組みました。この制度は、郡上の木を80%以上使って新築する場合などに10～50万円の奨励金を交付するもので42件の申請がありました。
(郡上市産材住宅建設等支援事業)

内容	H22	H23
申請件数	26件	42件
郡上市産材80%以上使用	76%	80%
新規定住につながったもの	50%	47%



白鳥中学校木造校舎の建設

白鳥中学校の木造校舎建設のため、市内各地から木材が集められました。総木材使用量は1,670㎡でその99%が岐阜県材、うち92%が郡上市産材が使われました。併せて建設された屋内運動場と格技場も内装木質化を図ったため、学校全体が木の持つ温かみと優しさのあふれる雰囲気になりました。24年度は大和中学校の体育館が木質で建設されます。



産直住宅の建設支援

岐阜県産直住宅団体加盟の工務店で住宅を建てた場合に、大黒柱相当分を県と市で助成を行う制度により1棟の産直住宅の建設支援を行いました。(産直住宅建設支援事業)

林業グループの育成、強化

市内で活動する林業グループへ助成金を交付して、活動の支援を行いました。また、各林業グループの活動や会議等に参加し情報や課題を共有しました。
(林業グループ活動育成等事業)

森林環境教育の推進

林業グループ、林業普及員と連携し小中学校の林業体験や森林教室への支援を行いました。牛道小学校みどりの少年団は、植林等を通して郷土の森林の役割を理解する活動が高く評価され、奈良県で開催された全国緑の少年団活動発表大会で全国5団体に贈られる「みどりの奨励賞」を受賞しました。



国際森林年記念フォーラム開催

「日本の森林と環境問題」と題した養老孟司氏による講演会の後、各業界の代表者によるパネルディスカッションが行われました。

郡上の間伐材をわりばしにして販売する活動を通して森林整備だけでなく、環境問題、障害者福祉、地域の活性化等に取り組む郡上わりばしプロジェクト実行委員会からは、活動内容の紹介や活動に対する思いなどが語られました。



郡上市みどりの祭り開催

和良町道の駅にて『第5回郡上市みどりの祭り』を開催しました。式典では、和良林業グループと明宝の郡上リーフ・レディースによる活動発表の他、郡上東中学校による合唱発表などが行われました。その後、間伐体験やログベンチ作り、森林散策、ネイチャークラフトが実施され市民が緑に親しみました。



市民講座の開催

郡上ふるさと考現学のシリーズ第2弾として、樹木講座や山歩きなど森林に関する講座を4回開催しました。

第4回目の講座では、郡上高校森林科学科の生徒による「森の健康診断」の研究発表が行われました。その後、林業関係者を交え、郡上高校生徒を中心に郡上の山の未来について語り合いました。



下流域との交流の促進（企業の森・上下流連携）

平成20年に締結された県、市、ブラザー工業の3者協定に基づく企業の森活動を推進しました。この活動は、環境保全活動に関心の高い企業に市内森林において地域住民とともに森林保全活動に参画・貢献してもらうものです。

白鳥町の「ブラザーの森」における春と秋の植栽活動のほか、八幡町と美並町で間伐を実施し72 m³の木材を搬出しました。

また、岐阜市と協定を結ぶ「たずさえの森」では間伐6.33haと下刈1haが行われました。（たずさえの森事業）



ブラザーの森活動

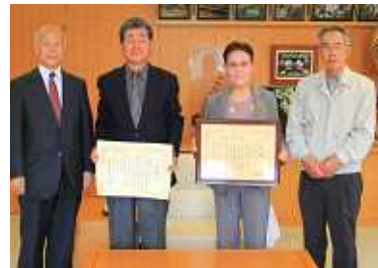
間伐実施面積	0.81ha
植栽活動 4月	広葉樹 350本植栽
" 10月	広葉樹 350本植栽

林業・緑化功労者表彰

林業や緑化活動に長年貢献したことが認められ、郡上市から2名と1団体が表彰を受けられました。

市長面談では、これまでの活躍に対するお礼と今後の活躍について期待が寄せられました。

緑化功労者表彰「岐阜県知事表彰」	1個人
農村漁村女性・シニア活動表彰 「林野庁長官賞」	1個人
さくら功労者表彰	1団体



森林づくり推進会議の開催

郡上市の森林づくりの方向性や具体的な推進課題を検討するため、市民、林材業関係者、行政により組織された郡上市森林づくり推進会議にて、市町村森林整備計画、市有林での森林資源循環プロジェクト等について検討を行いました。



新規就労者の育成、支援

林業側と建設業側が協働して森林づくりを進める「林建協働」の取り組みが進められました。

建設業者7社と森林組合、市の3者で組織する「郡上地域森づくり協議会」では、白鳥町で約300haの集約化プロジェクトに取り組んでいます。



資料 郡上市の森林・林業

- 1．森林の概況
- 2．間伐実施状況
- 3．県内他市町村との比較

1. 森林の概況

市総面積の約 9 割が森林 表 1

森林の 97%が民有林で、うち 9 割が個人の所有する私有林 表 2

民有林人工林の蓄積量は 14,821 千 m^3 で資源が充実 表 3

人工林の主要樹種は南部地域はヒノキ、北部地域はスギの割合が高い

- 美並・和良地域の人工林面積の 8 割弱がヒノキ
- 白鳥・高鷲地域の人工林面積の 8 割強がスギ
- 市全体では、スギ、ヒノキ人工林面積の割合はほぼ同程度

人工林の 56%が間伐対象林分 (3~9 齢級 = 11~45 年生) 表 4

[表 1] 総土地面積に占める森林の割合

単位：ha

区分	総土地面積	森林	農地	その他	森林率
郡上市	103,079	92,463	1,731	8,885	89.7%

[表 2] 所有形態別森林面積

単位：ha

区分	民有林		国有林	合計
	私有林	公有林		
面積 (割合%)	81,843 (88.5)	7,939 (8.6)	2,681 (2.9)	92,463 (100.0)

[表 3] 民有林人工林・天然林別蓄積量

単位：千 m^3

区分	人工林			天然林	合計
	8 齢級まで	9 齢級以上	計		
蓄積量 (割合%)	4,423 (21.8)	10,398 (51.2)	14,821 (73.0)	5,466 (27.0)	20,287 (100.0)

[表 4] 民有林人工林齢級別面積

単位：ha

区分	1~2	3~7	8~9	10~12	13~	合計
面積 (割合%)	285 (0.6)	13,832 (28.0)	13,938 (28.2)	15,532 (31.4)	5,871 (11.8)	49,458 (100.0)

2. 間伐実施状況

年間約 3,000ha の間伐を実施

郡上市は県全体間伐実施量の 5 分の 1 (約 20%) を実施

間伐実績

単位：ha

年度	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23
郡上市	2,833	3,247	3,456	3,236	3,023	3,093	3,078	2,630
県全体	12,118	12,800	14,800	15,200	15,500	15,700	14,000	11,910

(県) 新緊急間伐推進 5 年計画

(県) 間伐促進加速化計画

3. 県内他市町村との比較

総森林面積 ha

1	高山市	200,648
2	郡上市	92,463
3	下呂市	78,264
4	中津川市	53,919
5	恵那市	38,902

民有林人工林面積 ha

1	郡上市	49,458
2	高山市	45,242
3	下呂市	33,289
4	中津川市	23,020
5	恵那市	20,710

民有林人工林蓄積 千m³

1	郡上市	14,821
2	高山市	11,159
3	下呂市	11,129
4	中津川市	6,261
5	恵那市	5,672

年間除間伐実施面積 ha

1	郡上市	3,266
2	下呂市	1,877
3	高山市	1,307
4	恵那市	1,299
5	関市	1,262

年間造林実施面積 ha

1	郡上市	47
1	高山市	47
3	恵那市	12
4	揖斐川町	8
5	山県市	7

造林作業路開設実績

1	下呂市	49 路線(30,297m)
2	郡上市	44 路線(28,505m)
3	東白川村	43 路線(22,735m)
4	高山市	41 路線(25,421m)
5	中津川市	33 路線(11,306m)

林道路線数

1	高山市	275 路線(598,001m)
2	郡上市	271 路線(588,327m)
3	下呂市	212 路線(518,316m)
4	中津川市	203 路線(509,000m)
5	関市	135 路線(235,652m)

森林技術者数

1	郡上市	18 事業体(194 人)
2	高山市	12 事業体(161 人)
3	下呂市	12 事業体(92 人)
4	中津川市	12 事業体(86 人)
5	岐阜市	12 事業体(75 人)

平成 22 年度版 岐阜県森林・林業統計書より